

手足口病と伝染性紅斑について

城里町国保七会診療所 上井 雅哉

夏に流行する感染症のうち、手足口病と伝染性紅斑(リンゴ病)についてお話しします。

■ 手足口病

手足口病は、乳幼児を中心に口の中や手のひら、足の裏などに水疱性の発疹が現れる感染症です。

毎年夏が流行のピークですが、本年は6月から、大流行した平成29年を上回るペースで患者数が急増しています。

原因となるウイルスは、コクサッキーウイルスA6、同A16、エンテロウイルス71などで、感染経路は飛沫感染や接触感染、便から感染する糞口感染です。数種類のウイルスが交互に流行するため、何度も感染することがあります。

潜伏期間は3～5日で、口の中や手のひら、足の甲、足の裏、ときにはお尻に水疱性の発疹が現れます。ウイルスは水疱内に存在し、水疱が治っても3～4週間は糞便中にウイルスが排出されます。成人が感染した場合、口内痛や足の裏の水疱による痛みからの歩行困難など、重症化することもあります。

治療方法は対症療法のみで、1週間以内に自然治癒します。口の中の水疱による痛みなどで食事が取りにくい場合は、調理法を工夫し、こまめに水分を摂取しましょう。

エンテロウイルス71は、髄膜炎や脳症を合併することがあります。高熱が続いたり、嘔吐がみられた場合は、医師に相談してください。

■ 伝染性紅斑(リンゴ病)

伝染性紅斑(リンゴ病)は、ヒトパルボウイルスB19により、主に集団生活を送る園児や小学生に流行する感染症です。今年も、平成27年以来の流行年ではないかと言われています。

健康な子どもが初めて感染(飛沫・接触感染)すると、約7日後に発熱やのどの痛み、寒気などの軽い感冒様症状が現れます。この時期にウイルス

の体外排量が最も多くなります。その後抗体が作られ、ウイルス量が減少します。感染後14～18日で、両ほほや肩、手足に紅斑が現れます。両ほほに現れる境界明瞭な紅斑がリンゴ病と呼ばれる理由です。

約1週間で皮疹は消え、通常は合併症なく軽快する予後の良好な疾患で、一度罹患すると終生免疫が得られ再感染しません。周囲に感染しやすい初期段階の診断は困難であるため、効果的な感染予防策がなく、特徴的な紅斑が出現したときには感染性はほとんどなくなっています。したがって、この時点で出席停止にしても意味がありません。

成人が感染した場合、紅斑は小児より少ないですが、関節炎が約半数の患者にみられ、関節リウマチ等と鑑別を要することもあります。また、妊婦が感染した場合は、胎児水腫や流産を合併することがあり、重症貧血を起こす危険性もあります。小児と成人では、病像の違いに注意が必要です。

■ 手足口病と伝染性紅斑の予防対策

今回取り上げた二つの感染症は、小児科領域では一般的な疾患ですが、成人に感染した場合は、重症化する危険性があります。いずれも抗ウイルス薬がなく、ワクチンも有効なものがないため、対症的な治療が中心になります。

家族内感染や保育園等の施設内感染が多いため、こまめな手洗いや外出時のマスク着用など、インフルエンザ流行時に準じた方法で感染を予防しましょう。



おでかけください

8・9月のイベント情報

(県央地域)

● 小美玉市

『ふるさとふれあいまつり』

日時 8月31日(土)

午前9時～午後9時

※荒天の場合は、翌日に延期

場所 希望ヶ丘公園

(小美玉市中台4-1-8)

問合せ 小美玉市市民協働課

☎ 0299-148-1111

● 水戸市

『水戸まちなかフェスティバル』

日時 9月16日(月・祝)

午前10時～午後4時

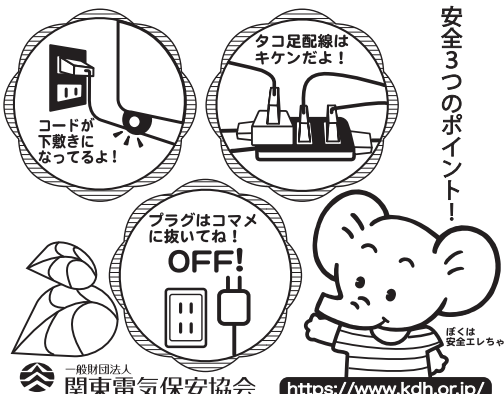
場所 大工町交差点～水戸駅

問合せ 水戸まちなかフェスティバル実行委員会

☎ 029-1232-19185

8月は経済産業省主催の
電気使用安全月間です

安全3つのポイント!

一般財団法人
関東電気保安協会<https://www.kdh.or.jp/>